

鹿児島県佐多町における高齢者の食生活(第2報)
鹿児島県立短大 ○倉元綾子、小住フミ子

《目的》前報のように高齢化の進む鹿児島県佐多町の高齢者の食生活を調査したが、その特徴を都市との比較検討によって明らかにしようと試みた。

《方法》(1)鹿児島市は人口54万人(1991年推計)の県庁所在地で、高齢化率11.0%(1990年国勢調査)である。(2)調査は鹿児島市の65歳以上の居宅高齢者を対象に1994年12月、質問紙法、留置法で行った。有効回収数299票、回収率85.4%であった。(3)佐多町については前報と同様である。

《結果》(1)鹿児島市の調査対象者は男:女=1:2、平均73歳、年齢構成は65歳～74歳が2/3、75歳以上が1/3であった。独居1/4、一世代世帯2/5で、居住期間は平均29年である。(2)食事時刻は朝昼夕とも佐多町が鹿児島市より規則正しく、時間帯のばらつきが少なく、全体的に早い。昼夕の主食は「ごはん」がほとんどである。鹿児島市ではパン、麺類の割合が朝昼夕とも佐多町より増える。欠食、好き嫌い、外食の割合は両地域とも少なく、特に佐多町では少ない。(3)佐多町は鹿児島市より栄養、食生活に関心が高く、農漁村であることも反映して、魚、野菜、海藻の摂取に心がけている。(4)惣菜等の利用はほぼ似た傾向であった。主な理由として、「簡単」、「おいしい」のほか、鹿児島市では「経済的」、佐多町では「家族が好む」、「栄養的」があげられた。(5)隣近所や社会との交流は佐多町が鹿児島市より活発で、支出の多い項目の第2番目には交際費があげられている。食事や野菜などのやりとりも鹿児島市では半数以上が「しない」が、佐多町では月1-2回を中心に行っている。(6)食事の満足度は各項目で佐多町が鹿児島市よりも幾分低いが、全体としての満足度は佐多町の方が高い。